番号	年	著者	所属	フィブリノゲン投与推奨	フィブリノゲン投与量	肝炎感染の記述
5-27-33	1979 (S54)	寺尾俊彦	浜松医科大学助教授	○	3g	×
5-27-34	1979 (S54)	蜂屋祥一	東京慈恵会医科大学教授	○		×
5-27-35	1980 (S55)	椹木勇	関西医科大学教授	○	4-8g	×
5-27-36	1980 (S55)	品川信良	弘前大学教授	○		×
5-27-37	1980 (S55)	諸橋侃	慶應義塾大学教授	×		×
5-27-38	1981 (S56)	中島襄	天理よろず相談所病院	○	5-6g（1-2gの少量では効果は期待できない）	×
5-27-39	1981 (S56)	荒木日出之助	昭和大学教授	○	4-6g	×
5-27-40	1981 (S56)	真木正博	秋田大学教授	○	3-5g	×
5-27-41	1982 (S57)	鳥越正	山口大学教授	○	4-8g	×
5-27-42	1982 (S57)	真木正博	秋田大学教授	○	3-5g	×
5-27-43	1982 (S57)	福島努	福島県立医科大学教授	○		×
5-27-44	1983 (S58)	真木正博	秋田大学教授	○	3-5g	×
5-27-45	1983 (S58)	森憲正	宮崎医科大学教授	○		×
5-27-46	1984 (S59)	鈴木重統	北海道大学教授	○	3-6g	×
5-27-47	1984 (S59)	寺尾俊彦	浜松医科大学助教授	×		×
5-27-48	1985 (S60)	清水哲也	旭川医科大学教授	○	5-6g	×
5-27-49	1985 (S60)	真木正博	秋田大学教授	○	2-5g	×
5-27-50	1986(S61)	本郷基弘	岡山赤十字病院	○	4-8g	×
5-27-51	1986 (S61)	寺尾俊彦	浜松医科大学助教授	×		×
5-27-52	1987 (S62)	中山道男	琉球大学教授	×		×
5-27-53	1987 (S62)	福田透	信州大学教授	○	2-6g	×
5-27-54	1988 (S63)	真木正博	秋田大学教授	○	3-5g	×
5-27-55	1988 (S63)	藤井仁	東京都立母子保健院	×		×
5-27-56	1989 (H1)	中山道男	琉球大学教授	×		×
5-27-57	1989 (H1)	真木正博	秋田大学教授	○		×
5-27-58	1990 (H2)	中山道男	琉球大学教授	○	4-6g	×
5-27-59	1990 (H2)	雨宮章	聖マリアンナ医科大学	×		×
5-27-60	1990 (H2)	浮田昌彦	倉敷中央病院	×		×
5-27-61	1991 (H3)	福田透	信州大学教授	×		×
5-27-62	1991 (H3)	中林正雄	東京女子医科大学教授	×		×
5-27-63	1991 (H3)	寺尾俊彦	浜松医科大学助教授	×		×
5-27-64	1992 (H4)	太田孝夫	帝京大学教授	×		×
5-27-65	1992 (H4)	田中俊誠	北海道大学助教授	×		×
5-27-66	1994 (H6)	日高敦夫	大阪市立母子センター	×		×
5-27-67	1995(H7)	雨宮章	聖マリアンナ医科大学教授	×		×

図表 5- 28　最新産科学　異常編（文光堂）における記載の変遷

番号	年	版	著者	産科的異常出血に対するフィブリノゲン製剤の使用	肝炎感染に関する記述
5-28-1	1949 (S24)	第 1 版	真柄正直	記載なし	記載なし
5-28-2	1953 (S28)	第 4 版	真柄正直	記載なし	記載なし